

■ 学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b>	○学力を定着させるために、個に応じた繰り返し学習や振り返り学習等を取り入れた授業作りを行う。	<b>最 終 評 価</b>
<b>環境作り</b>		○ICT機器を活用し、ユニバーサルデザインを意識した教室環境作りを行う。	

■ 学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
1	国語	<p><b>学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名は基本的に習得しているが、姿勢が崩れたり、字形が乱れたりする児童がいる。</li> <li>発表することに積極的な児童が多いが、友達の発表に興味をもって最後まで集中して聞けない児童がいる。</li> <li>読書への興味は個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆順に気を付けて丁寧にカタカナや漢字を書き、正しく身に付けるようにする。</li> <li>先生や友達の話最後まで聞いたり、自分の考えたことや気持ちを伝えたりする力を高めていく。</li> <li>進んで読書し、本への興味を高めたり、語彙を増やしたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーシックタイムや家庭学習を活用し、繰り返し練習を行う。</li> <li>目と体を向けて話を聞くことを繰り返し指導する。日直や音読発表の機会を設け、人前で話すことへの自信をもたせる。</li> <li>図書や朝読書の時間や読み聞かせを通して様々な本に触れることができるようにする。</li> </ul>		
	算数	<p><b>学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的なたし算、ひき算の計算力は身に付いている児童が多いが、文章題になると立式や答え方に誤答がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を最後まで読み、正しく立式する力を高める。</li> <li>自分の考えを進んで友達に伝えたり、友達の説明を集中して聞いたりする力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーシックタイムや家庭学習を活用し習熟を図る。間違え直しを必ず行う習慣を身に付ける。</li> <li>自分の考えを伝える機会を意図的に設け、理解を深める。</li> </ul>		
2	国語	<p><b>学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題やワークテストの状況を見ると、漢字の読みは概ねできてきているが、書き取りにミスが多く見られる。同じ間違いを繰り返すことが多く、定着が不十分である。</li> <li>物語文や説明文の読み取りは概ねできてきているが、「書く」分野においては、初め、中、終わりに分けて書く事に課題があり、まだどの内容が初めなのか、終わりなのかを理解できていない。感想を書くことは、決まった文例が多く、バリエーションが少ない。</li> <li>「話す」ことについては、適切な速さで相手に伝わるように話すことに慣れていない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き取りを確実に習得させる必要がある。</li> <li>作文を「初め、中、終わり」に分けて書く事柄を順序立てて書く力を付ける必要がある。また、語彙を増やし、自分の考えや気持ちを具体的に書く力を伸ばしていく必要がある。</li> <li>相手意識をもって分かりやすく相手に伝える力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字テストを小テスト、ワークテスト、学期末のまとめで確実にやり直しをさせる。漢字テストを定着するまで繰り返し行う。</li> <li>「書く」単元の際には、全体指導の後に下書きを行った後、課題に沿った書き方か自分自身で振り返る場を設定する。その上で担任が添削を行い、清書させる。短い日記を週に一度書かせる活動を入れ、作文への苦手意識を低下させる。また、読書する時間を朝に多く取り入れ、語彙を増やし、文章力を養う。</li> <li>朝のスピーチを取り入れたり、学習単元中の発表の際に1回だけでなく何度か発表させたりすることで、経験を増やし、話すことに自信を付けさせる。</li> </ul>		
	算数	<p><b>学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年の繰り上り・繰り下がりを含む加減計算は概ね身に付いている。2桁の加減については、理解はしているが繰り下がりの書き忘れなどによる計算ミスが見られる。「長さ」の学習では、cmの読みは概ね身に付いている。mmとの関係や読みについては、定着が不十分な児童が見られる。</li> <li>自分の考えを図に表すよさを十分に感じており、説明することに意欲的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着を図る必要がある。</li> <li>より簡潔明瞭な表現を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーシックタイムや家庭学習で、既習内容の定着を確実にする。</li> <li>授業の検討場面で様々な表現を比較させ、考えの相違点に気付かせるとともに、表現の仕方についても触れ、よさを実感させる。</li> </ul>		
3	国語	<p><b>調</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に、全国平均を上回り、良好である。特に「読むこと」は全国平均と比べて正答率が高く、11.7ポイント上回っている。漢字を読む、物語、説明文を読み取る、いずれにおいても、全国平均を大きく上回った。</li> </ul> <p><b>調</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」が、全国平均より1.3ポイント下回る結果となった。目標値は上回ったが、区平均と比較しても下回る結果となり、課題が残る。</li> </ul> <p><b>学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提出される課題やワークテストの状況を見ると漢字の書き取りや、文章の読み取りに誤りがある。新出漢字は、学習直後は書けるが、時間が経つと忘れてしまう状況にある。ワークテストにおいて、文章を最後まで読まずに答えてしまう傾向にある児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文、説明文両方において、内容を正確に読み取ることができているので、今後も継続して力を伸ばしていく。</li> <li>人の話を最後までじっくり聞き、要点が何かを捉え、それに対する自分の考えをもてるよう指導していく必要がある。</li> <li>習得後の漢字を、正確に記憶し、確実に習得する力を伸ばす必要がある。</li> <li>文章をしっかり最後まで読み、意味を確実に理解する力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週3回の朝読書、週1回の図書、前後期に1回ずつある読書月間を中心に、定期的に読書する機会と共に、感想を交流する時間などを通して、内容を振り返る活動を行う。</li> <li>人が発表やスピーチする際には必ず体を向けて聞く習慣の定着を図る。授業では、必ず人の発表に対して、要点とそれに対する自分の考えをノートに記述する取り組みを行う。</li> <li>週3回実施する漢字小テストで、100%に達しなかった児童に対して、再度直しを提出させることで、繰り返し練習に取り組みせ定着を図る。</li> <li>単元ごとに実施するワークテストで、見直し、やり直しを徹底し、間違えた問題は直して再提出させることで、習熟を図る。</li> </ul>		

	算数	<p><b>調</b>全体的に、全国平均を大きく上回り、大変良好である。「1000までの数」や「かけ算」などの「数と計算」領域において正答率が高い。</p> <p><b>調</b>「長さ、かさ」の「量と測定」領域において課題がある。</p> <p><b>学</b>提出される課題やワークテストの状況を見ると、基本的な計算問題は概ね解くことができている。一方で既習事項を活用した応用問題では、問題を解いたり、考えを説明したりすることが難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数と計算」の領域については、計算の仕方を理解し、問題を解くことができているので、今後も継続して力を伸ばしていく。</li> <li>・「量と測定」領域においては、数量感覚を豊かにしていく必要がある。</li> <li>・問題に対して自分の考えを式・図・言葉を適切に用いてノートに表現する力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを日常生活における体験と結び付けるとともに、体験活動を確実に取り入れることで数量感覚を豊かにしていく。</li> <li>・授業で扱う問題に対して、式・図・言葉を使って自分の考えを書く時間を十分に設けるようにする。それらの考えを共有することで、考えを説明する力を養っていく。</li> <li>・単元末で応用問題を扱い、習ったことを基に考えることができるようにしていく。</li> </ul>		
4	国語	<p><b>調</b>正答率は全体的に、全国平均を大きく上回っている。その中でも国語への関心意欲が高く、「書く・読む能力」「言語の知識理解」の分野において正解率が高い。</p> <p><b>調</b>他の領域に比べ、「話す・聞く能力」の領域において課題がある。また、作文では12.5%の児童が無回答であった。</p> <p><b>学</b>提出される課題やワークテストの状況を見ると、設問の読み間違いや自分なりに読んでしまう傾向がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文及び物語文では概ね内容を理解しているが、より言葉に着目して深く読む、要点を抜き取る部分においては、さらに重点的に学ぶ必要がある。</li> <li>・正確に聞き取る点において、聞いた内容を自分なりに解釈してしまう傾向がある児童が誤回答の中に多い。</li> <li>・書く力は、中心となる文から逸れてしまうことが課題にある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文及び物語文を学ぶ際に、言葉に着目して読むことを重点的に取り向かせることで、中心となる文を捉えさせていく。</li> <li>・聞き取りの力を付けるために、短い文章を使って、要点をメモに取らせる等の活動を適宜入れていく。</li> <li>・プロットを明確にしてから書き出す、書く内容の要点をメモに取り、確認しながら書き進めさせる等をさせ、書く力を付けていく。</li> </ul>		
	算数	<p><b>調</b>正答率は全体的に、全国平均を大きく上回っている。「数と計算」の領域は特に正答率が高かった。特に、( )のある式の計算や、十進法位取り記数法による数の表し方の正答率が高かった。また、「面積」や「折れ線グラフ」の問題も同様に正答率が高かった。</p> <p><b>調</b>全国平均を下回ったものも「数と計算」の領域である。「億と兆の概数の表し方」の理解が不十分な児童がいる。</p> <p><b>学</b>学習の様子を見ると、計算方法は理解しているものの、計算の仕組みへの理解は不十分な児童がいる。また、考えをノートにまとめたり、発表したりすることに課題があると考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・億と兆の概数の問題は、扱う桁数が多くなってしまい、困惑している児童がいた。</li> <li>・自分の考えをノートにまとめる際には、説明がうまく書けなかったり、簡潔にまとめたりすることができない児童が多くいる。</li> <li>・自分の考えを整理して、分かりやすく伝えることが苦手な児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・億と兆の概数の問題は、4桁ごとに区切って数を読み取りやすくしたり、声に出して読み取らせたりして大きな数に慣れさせる必要がある。</li> <li>・式や図、数直線等を必要に応じて活用することができるように、繰り返し行い定着を図る必要がある。</li> <li>・授業中に言語活動を多く取り入れ、自分の考えを表現できるようにしていき、表現力を身に付けさせる。</li> </ul>		
5	国語	<p><b>調</b>全体的に、全国平均を上回り、大変良好である。国語への関心・意欲・態度が高く「書くこと」「読むこと」は正答率が高い。</p> <p><b>調</b>「言葉の学習」「作文」に課題がある。中でも「作文」に関しては誤答傾向を見ると無回答や条件に満たない誤りが見られた。</p> <p><b>学</b>提出される課題やワークテストの状況を見ると漢字の書き取りでの誤りがある。新出漢字の学習は正答率が高いが、学習からしばらく時間が経つと正答率が低くなる傾向にある。また、ワークテストの文末の答え方や句読点の打ち忘れ等細かいところでのミスが多くある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文などで人物の心情について読み取ることはできるが、説明文において文章を要約する力を身に付ける必要がある。</li> <li>・読み取ったことを短い文章で表現できるようになることが必要である。</li> <li>・出題範囲が広い漢字のワークテストになると正答率が低くなる傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードを拾っていきながら読む方法や筆者の考えがどこに書かれているかということに着目させて読解をさせていく。</li> <li>・短い作文を書く取り組みを取り入れるとともに、普段から既習の漢字は使うように促す。</li> <li>・小テストを定期的に行い、日常的に学習に取り組む習慣を付ける</li> </ul>		
	算数	<p><b>調</b>全体的に、全国平均を上回り、大変良好である。「わり算」や「計算のきまり」などの計算領域の正答率が高い。</p> <p><b>調</b>「折れ線グラフ」や「面積」などの図形関係の領域に課題がある。細部までメモリを読んだり、単位を変換したりする問題での誤答が見られる。</p> <p><b>学</b>授業での様子やワークテストの状況から基本的な問題を解くことは可能だが、発展的な問題や順序立てて考える問題でのつまずきが見られる。自分の考え方を帰納的演繹的に説明する力がまだ十分に身に付いていないと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算能力は身に付いてきているが小数のわり算の計算など難しい計算領域に入ってくるので単元が終わっても計算する習慣が必要である。</li> <li>・単位変換はその単元の時だけで暗記する傾向にあるので単位の仕組みを量やかさ、長さなど単元を超えて仕組みを理解していく必要がある。</li> <li>・計算方法の理解だけでなく、なぜその式になったのか言葉や数直線を用いて説明する学習が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算する習慣を付けていくために日常的に計算ドリルの家庭学習を出すだけでなく、週末にはPCを活用した学習を出し、計算する機会を設けるだけでなく自己の定着の振り返りが確認できるようにしていく。</li> <li>・図形領域は実際に作図等することが重要になってくるので、習熟度別学習の時間を有効に活用して一人一人の状況を確認し個別指導を重点的に行う。</li> <li>・問題解決型学習を取り入れ、自分の考えを記述する習慣を身に付ける。単元を通して全員が説明する機会を設けることができるように指導計画を立てる。</li> </ul>		

6	国語	<p>調どの領域も全国平均、区の平均を上回っている。その中でも、「話すこと・聞くこと」の正答率が高い。</p> <p>調他の領域に比べて「書く」力に課題がある。指定された長さや2段落構成で書くことに課題がある。また、自分自身の体験や見たり聞いたりしたことを交えて書くことは正答率が低い傾向にある。</p> <p>学課題やワークテストの状況を見ると、漢字の書き取りに小さな間違いをする児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出題範囲が限られているミニテストでの正答率に比べると漢字まとめテストなどになると正当率が低くなる傾向がある。</li> <li>・日記や提案文で自分の考えを書くことには苦手意識をもち、希薄な文章になる児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字ミニテストを週に1回継続的に行う。毎回間違い直しをし、漢字の定着を図る。</li> <li>・読み手意識をもった文章を書けるよう、文章構成についての指導をモデル文等を用いて事前に行う。また、書いた文章を読み合う活動を取り入れていく。</li> </ul>		
	算数	<p>調どの領域も全国平均、区の平均を上回っている。特に、「単位量あたりの大きさ」の正答率が高い。</p> <p>調他の領域に比べると「数と計算」の領域に課題がある。また、内容では「体積」の単元の正答率が低かった。</p> <p>学授業での様子を観察すると、割合の問題でのつまずきが見られた。計算問題では、小数のかけ算やわり算に間違いが目立つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則計算は比較的しっかりと身に付いている。しかし、小数の計算となると、小数点の動かし方や余りの出し方に間違いが多いため、定期的に復習が必要である。</li> <li>・図形の問題では複雑な形の体積を求めることが苦手である。全体から引いて考えたり、分解して考えたりする力を身に付ける必要がある。</li> <li>・「割合」の学習では、比べられる量と、もとにする量の関係が理解できていない。数直線を使ってきちんと意味を理解する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、学習している内容を計算ドリルを使って宿題にするだけでなく、「e ライブラリ」の教材を効果的に使い、定期的に過去に学習した内容を復習させるようにする。</li> <li>・ペア学習やグループ学習を取り入れることで、色々な考え方に触れさせる。そうすることで、複合図形の体積を求める際にも、公式に当てはめるのではなく、柔軟に考えられるようにする。</li> <li>・「割合」の問題では、数直線を使って考える習慣を身に付けさせ、全員が式の意味を説明する場面を設定する。</li> </ul>		
音楽	<p>学興味・関心をもって学習に取り組む児童が多い。特に器楽演奏への意欲が高く、音を合わせたり聴き合ったりする力を付けてきている。歌唱は様々な制約のある中、発達段階に応じて無理のない自然な発声で歌える児童が大半である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意図や思いをもって音楽表現をすることが、まだできない児童の姿も見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲に取り組むときに、どう感じたいか、どう演奏したいかという自分の思いを書かせたり、発言させたりし、さらには友達の考えを聞いて共有していく活動を積み重ねていく。</li> </ul>			
図工	<p>学興味や意欲をもって活動する児童が多い。友達の作品も素直に感動することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く作品に向き合って、工夫を重ねることに課題を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の道具や技法、材料を用意し、児童が自分で選択できる幅を増やす。</li> <li>・様々な要素を組み合わせることで、工夫が積み重なっていくよう、どの題材でも指導していく。</li> </ul>			
特支	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まなびの教室利用児童の実態を的確に把握し、低学年は特性に応じたベースアップを中心に、中学年、高学年は学年の学習や生活に適応しやすい指導を行う。また在籍学級での合理的配慮と指導の方針を各学級担任とともに考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年は課題の把握に努める。</li> <li>・今年度は低・中学年を中心に、対人関係の築き方や体の動かし方に課題のある児童が多い。</li> <li>・高学年は書字に課題のある児童が多く、学習に支障がでている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体や手先の不器用さを改善するためのトレーニングを行う。</li> <li>・絵カードや表情カード、気持ちよくなる言葉掛けなどを視覚的に理解しやすいよう工夫する。</li> <li>・よりよいコミュニケーションの方法を体感させ、各学級での生活につなげる。</li> </ul>			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。